

※サンプルデータ

**LITALICO** 発達特性検査

# 検査結果レポート

お子さまの特性とサポートの方向性

YYYY.MM.DD 受検

お名前

LITALICO発達特性検査サービスへのアクセスはこちら  
<https://h-navi.jp/assessment/>

© LITALICO Inc.

# 検査結果

## 1. 全体像

XXさんは、「運動」「対人・社会性」「学習」に関する困りが強い、「話し方」「多動・不注意」「感覚」に関する困りがやや強いという特徴がみられます。各大分類におけるXXさんのタイプは以下の通りです。

### 多動・不注意



困りがやや強い

不注意タイプ

### 対人・社会性



困りが強い

困り混合タイプ

### 学習



困りが強い

読み困難タイプ

### 情緒・行動



今は困っていない

今は困っていない

### 話し方



困りがやや強い

滑らかに話しにくいタイプ

### 感覚



困りがやや強い

感覚過敏タイプ

### 運動

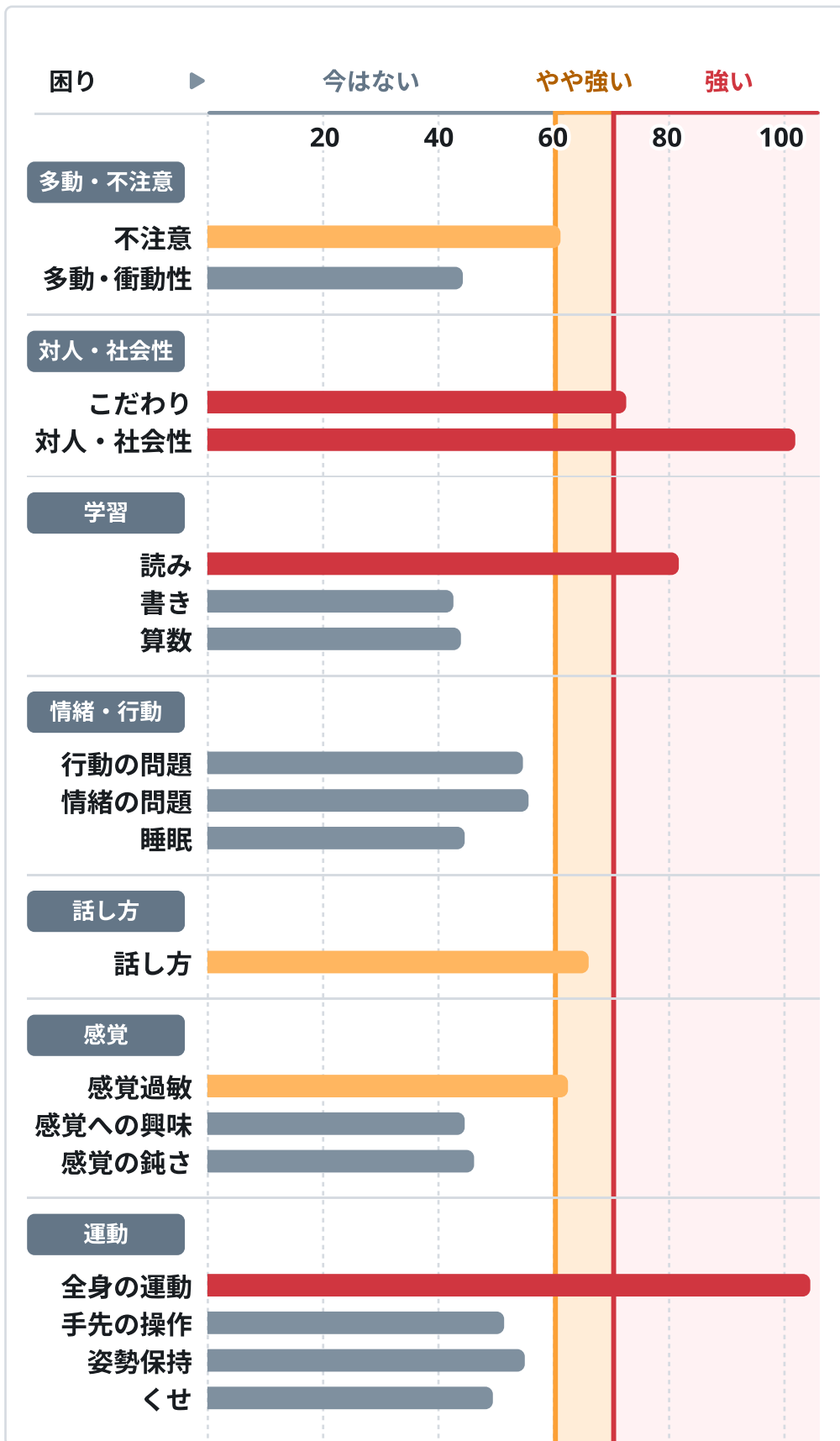


困りが強い

全身運動の困りタイプ

※本検査結果はサンプルです。  
検査結果は一人ひとりに合った内容が表示されます

# 結果数値グラフ



## お子さまの特性

- ほかに人とコミュニケーションをとることが苦手
- 興味関心の幅が狭く、こだわりが強い
- 全身を使った運動に関する困りがある
- 文字を読むことに困りごとがある
- 話す際に言葉がなめらかに出ないことがある

## よく見られる姿

お子さまの特性は、状況や環境設定次第では、本人や周囲が困ることも、強みとして生きることもあります。以下のような姿が見られるかもしれません。

### 困ること

#### ご家庭での様子

- 人の気持ちや感情に関心が薄い
- 行動の切り替えができない
- いつも通りが崩れることを嫌がる
- 慣れない場面や状況では不安が強くなる
- 暗黙の了解や意図をくみ取ることが難しい

#### 園や学校など家庭外での様子

- 周りの子どもへの関心が薄い
- ルールや予定の変更に対応するのが難しい
- 同じやり方や手順にこだわる
- 行事などの新しい場面が苦手である
- 暗黙の了解や意図をくみ取ることが難しい

### 強みになること

#### ご家庭での様子

- 一度習慣になったことは継続できる
- 新しいことをするときには慎重になる
- 好きなことへの集中力が高い
- 好きなものごとに対する集中力がある

#### 園や学校など家庭外での様子

- 決められたルールや手順を守る
- 新しいことをするときには慎重になる
- 好きな教科や活動に熱心に取り組む
- 好きなことに一生懸命取り組む

## お困りの分類ごとに結果を詳しく確認しましょう

現在のページは検査結果を要約した全体像のページです。以降のお困りの分類ごとの結果ページでは、各分類に特化したお困りやサポートの方向性がさらに詳しく説明されていますので、ご活用ください。また、表示される手立ては、大分類内だけではなく他の困りごとに対しても効果的な場合があります。取り組みやすいところから試してみてください。

※回答内容次第では、解説や手立てが表示されないことがあります。

### 検査結果に関する注意事項

- 検査結果は、あくまで今回の検査から推定された参考値です。お子さまの特性のすべてを表しているわけではありません。
- 「サポートの方向性」については、あくまでお子さまの特性に合いそうなサポート方法の選択肢を提示しているに過ぎず、無理にすべての実施を勧めるものではありません。ご家庭の事情に合わせ、試しやすそうなものからお試してください。
- 結果を読んで気になる点やさらに詳しく確認したい点があれば、専門家（医療機関や障害者支援センター、子育て支援センターなど）にご相談ください。

## 対人・社会性

### 困り混合タイプ



対人関係の困りごとやこだわりの特性があるタイプです。



## お子さまの特性

興味関心の幅が狭く、こだわりが強いタイプです。特定のものごとに熱中し、強い関心に向け、特定の人や場所、同じ順序で行動することなどに強くこだわる傾向があります。一方で、自分が関心を持っている以外にはほとんど関心を示さない場合があります。

また、ほかの人とコミュニケーションをとることが苦手な特性も見られます。相手の気持ちを推測するのが難しい場合が多いです。明確な指示やルールがなく、推察しながらの行動や理解が必要な場面を困難に感じることもあります。

# よく見られる姿

お子さまの特性は、状況や環境設定次第では、本人や周囲が困ることも、強みとして生きることもあります。以下のような姿が見られるかもしれません。

## 困ること

### ご家庭での様子

- 人の気持ちや感情に関心が薄い
- 行動の切り替えができない
- いつも通りが崩れることを嫌がる
- 慣れない場面や状況では不安が強くなる
- 暗黙の了解や意図をくみ取ることが難しい

### 園や学校など家庭外での様子

- 周りの子どもへの関心が薄い
- ルールや予定の変更に対応するのが難しい
- 同じやり方や手順にこだわる
- 行事などの新しい場面が苦手である
- 暗黙の了解や意図をくみ取ることが難しい

## 強みになること

### ご家庭での様子

- 一度習慣になったことは継続できる
- 新しいことをするとき慎重になる
- 好きなことへの集中力が高い

### 園や学校など家庭外での様子

- 決められたルールや手順を守る
- 新しいことをするとき慎重になる
- 好きな教科や活動に熱心に取り組む

## 困りや特性の背景の要因

### 「いつも通り」にこだわる傾向がある

「いつもと同じ」を好み、いつもと違う状況や新しい場面に不安を示し、突然の変更に臨機応変に対応することが苦手な傾向にあります。いつもと違う状況になると見通しが立ちづらくなり、どうしていいのかわからない状態になるようです。

例えば、買い物に行く道順がいつもと同じではないと怒ったり、突然の予定変更を伝えると混乱したりすることがあります。視点を変えれば、いつも通りのルーティンや見通しが立つ状況であれば、安心して過ごせるタイプとも言えます。



※検査結果に応じて適切な内容が表示されます。



# サポートの方向性

検査結果を元に、お子さまの困りを減らし、過ごしやすくするための関わり方や環境調整について説明しています。ご家庭の事情に合わせて、見えそうなものから試してみてください。

## ご家庭でのサポート

### 1. 習慣化する

いつも同じ手順で取り組めるよう、家庭での仕組みや環境を整えましょう。

例1) 「①家に着いたら靴を脱ぐ、②決めた場所にかばんを置く、③手を洗う」など、帰宅後の場所と行動をルーティン化する

例2) 朝の支度の手順を書き出し、一つずつ確認しながら進められるよう整える

手順のばらつきがあると、混乱したり不安になったりしがちです。毎日同じことを繰り返す日常生活の行動については、手順や場所を決めてルーティン化する・手順表を作成するなどの工夫をするといいでしょう。

手順表にはイラストや写真を加えるなど、視覚的に捉えやすいよう整えるのも有効です。同時に複数のことを進めるよりも、一つずつ完了できるように手順を組む方が上手くいく場合も多いです。

### 2. 指示の伝え方を工夫する

指示や説明は、短く具体的に伝えましょう。

例1) 「①片づけ」「②手を洗う」「③おやつ」とイラストや文字が書かれたカードを1枚ずつ見せながら手順を伝える。手順は並べて置いておき、確認しながら一緒におこなう

例2) 「これ出しっぱなしだよ。ちゃんとして」などの曖昧な指示は避け、「ランドセルを棚に置いてね」と具体的に伝える

例3) 「こぼさないで」ではなく「こぼれそうだから、両手で持ってね」と理由と一緒にしてほしいことを伝える

お子さまに対して「何度言っても伝わらない」と感じたら、説明や指示が上手く伝わっていない



可能性があります。長く複雑な説明は短くする、数字を使うなど工夫しましょう。

「ちゃんとして」などの曖昧な言い方や「これ」などの指示語を使った言い方、「こぼさないで」のような否定形の言い方は、お子さまにとって混乱しやすく、何をすればいいのか理解できない場合があります。してほしいことを具体的に伝えるといいでしょう。

**※検査結果に応じて適切な内容が表示されます。**

## 園や学校など家庭外でのサポート

### 1. 習慣化する

いつも同じ手順で取り組めるよう、仕組みや環境を整えましょう。

例1) 朝の会や帰りの会の流れを決め、毎日同じように進行する

例2) 掃除当番や給食当番の手順をチェックリストにする

家庭と比べて、学校は周りのクラスメイトやその日の状況によってイレギュラーなことが起きやすいため、お子さまにとって不安を感じやすい環境です。いつも同じ流れで進められる取り組みについては、手順を決めておくと集中してスムーズにおこなえます。

例えば、毎日のルーティンである当番の手順をチェックリストにすることは、本人はもちろんクラス全体に対するサポートにもなるでしょう。すべての手順を固定しすぎて柔軟に動けなくならないよう、何をルーティン化するといいのか検討してみてください。

## 2.指示の伝え方を工夫する

指示や説明は短く具体的に伝えるとともに、お子さまが聞き取れているかどうかを意識して、伝える配慮をしましょう。

例1) 複数の指示を出すときに、黒板に「やること」を書き、本人が自分で確認できるようにする

例2) 全体への一斉指示が理解しづらい場合は、個別に短く伝えたり、メモを書いて渡したりする

学校では一斉指示で複雑な内容を伝える場面がよくあります。指示が理解できずにやるべき行動ができなかったり、周りに助けを求められなかったりと、お子さまが困っているかもしれません。

口頭だけではなく文字で書く、短く繰り返して伝えるなど、一斉指示を理解できない場合に個別でフォローする工夫があるといいでしょう。

**※検査結果に応じて適切な内容が表示されます。**

## サポートに関する参考情報

[検査結果の理解と活用：「対人・社会性」の困りQ&A](#)


[サポート・相談先をお探しの方へ](#)

[周囲の方や関係者への相談・共有の仕方](#)

[子育てに悩むとき：保護者自身の心身の健康・相談について](#)

[見通しの立ちやすい環境づくり：TEACCHプログラムによる構造化](#)

※LITALICO発達ナビのWEBサイトでご確認いただけるサポート情報です。診断名が記載されたリンクを含む場合がありますが、特定の診断を示唆するものではありません。診断がない場合でも、特性やサポート方法を理解する上で役に立つ情報が含まれていますので、ご活用ください。



※実際の検査結果では  
他の6つの大分類もご確認いただけます